

令和7年3月18日

## 3月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木県では、3月に入り県西・県北地域とも間伐材を中心に安定した入荷になっている。しばらくは間伐材の入荷が多いと予想される。スギ材は供給量が増え、安定したこともあり若干の値下がりになった。3.0m柱材で16,000円台後半、4.0m中目材15,000円台半ばで推移。ヒノキは全般的に品不足で高値が続いており、3.0m柱材で24,000円台後半、4.0m中目材は24,000円台半ばで推移している。

群馬県では原木の出材量が順調で集荷は容易になった。スギ原木価格は徐々に下がり始めた。製材工場の原木消費は公共事業の受注と年度末需要のため徐々に増やしている。操業は80%程度まで回復し、人手不足の中でフル稼働。販売は回復傾向にある。製品在庫は角類は均衡、ヒノキ4mの90角・105角KDは原木不足のため少ない。販売単価は維持しているが、原木単価が上昇しているため厳しい状況に変わりはない。

### 2. 米材

米国製材品市況は1月上旬から全樹種で上昇を続けている。ランダムレンジス紙発表の15種平均価格(3/6)は461/MBF、1月末に比べ6.7%の上昇。特にカナダ産SPF製材品は1月下旬比16%上昇となった。カナダ製材品に対する現状の関税約15%に3/4から25%上乗せされ、さらに25%の関税を上乗せするため、現在米国側が調査中である。カナダ産製材品の関税が現状のまま、ないし更に上乗せされれば、カナダから米国への輸出急減→米国での製材品生産増→原木需要増となり、今後産地原木価格は上げ基調になると予想される。中国が3/4に米国産原木の輸入停止を発表したため、現在港頭にある中国向け原木は滞留することになる。米マツIS級並の3月積み対日輸出価格は未確認情報ながら前月比横ばいの\$940/千SCRで決着した模様。

1月原木入荷は113千 $m^3$ となり、今月はカナダからの入荷割合が40%を占める。出荷は126千 $m^3$ で出超、在庫は150千 $m^3$ 、在庫率は1.36ヵ月。東京木材埠頭の2月製品入荷は4.6千 $m^3$ (前月比42.8%減)、出荷は9.0千 $m^3$ (同0.2%減)、在庫は22.5千 $m^3$ (同16.2%減)。角類の競合者である集成材メーカーが値上げに動いており、国内米マツ製材メーカーも追随値上げを行うと見られ

る。

### 3. 欧州材

第2・四半期交渉が始まるが、€10~15/m<sup>3</sup>程度の値上げが予想される。オフア数量は契約残消化が遅れているので、かなり減少する模様である。国内の間柱類の流通在庫が減少しているため引き合いが増え、値を戻している。スギ間柱の価格も上がっており価格差が縮小し、WW間柱へ戻る動きもある。輸入集成柱・梁は産地価格の上昇でコスト増は避けられない。輸入集成材の入荷量減少により国内集成材メーカーの荷動きは好調で、特にWW集成管柱に値戻しの動きがある。1月の東京港入荷は9.5千m<sup>3</sup>と前月比減少、出荷は14.2千m<sup>3</sup>、在庫は38.9千m<sup>3</sup>と順調に減少しており、2、3月も引き続き減ると予想される。

### 4. 北洋材

産地では3月は暖冬の予想で各企業は伐採搬出を急いでいる。日本向け製材生産は増加している。中国からの引き合いは強くない。ウズベキスタン等向けの低グレード品の引き合いはややダウン。アカマツ完成品の産地価格は\$570~560/m<sup>3</sup>、円安でコストは大きくは変わらない。ルーブル高により産地価格に値上げの動きがある。アカマツ野縁製品は10万円台を維持している。値下げよりも数量をもっと欲しいという声が相変わらず強い。為替乱高下にもかかわらず、結果的に国内価格は翻弄されることなく推移している。1月の製品入荷（東京+川崎）は8.9千m<sup>3</sup>で鉄道輸送の不安定性があり、3~4月も顕著な入荷増は見込めない。出荷は10.9千m<sup>3</sup>で実需に迫力がない。在庫は23.6千m<sup>3</sup>で入荷が少ない分、在庫水準は漸減が予想される。

### 5. 合板

合板工場への原木入荷は減少しており、原木価格も上昇している。合板メーカーは3月も値上げ姿勢を崩していない。メーカーには在庫補充で注文が集中しているが、出荷に時間を要しており、流通在庫は低調に推移している。合板生産量は22.0万m<sup>3</sup>。針葉樹構造用合板の生産量は19.7万m<sup>3</sup>、出荷量は20.4万m<sup>3</sup>、在庫量は14.0万m<sup>3</sup>で前月より7千m<sup>3</sup>減少。輸入合板の1月入荷は17.9万m<sup>3</sup>、前年比89.1%で2月の入荷も減少しており、今後も低調に推移すると見込まれる。12mm系の不足と値上げは確実と見られる。マレーシアの洪水被害の影響でサラワク州の工場が生産停止の事態となっており、今後の入荷に影響が出そうである。インドネシアでは日本からの注文が減少しており、今後の入荷も減少すると見られる。

## 6. 構造用集成材（国内産）

2月のラミナ入港量は通年並みで適正在庫である。第1・四半期契約のラミナ価格（CIF）は€280～290/m<sup>3</sup>程度。欧州産地の製材メーカーは需要減に伴い、減産体制をとる見込みである。国内集成材メーカーの受注は前年同月比95%の水準である。長物や尺上の価格はやや強含みである。原料高、製造コスト高の影響により価格は上げ相場である。1月の構造用集成材の輸入量は小断面17,882 m<sup>3</sup>（前年同月比12.2%減）、中断面10,628 m<sup>3</sup>（同38.8%減）。

## 7. 木材チップ（東海）

原木は製紙・バイオマス発電用とも入荷は降雪のある奥山を除き順調である。燃料材は震災廃棄物の流通で今冬は集荷の混乱は見られなかった。一部地域では受入抑制等の余剰感が強い。チップ工場では処分費の値上げの動きも見られる。製紙会社では用紙、板紙ともに抄物の集約化を進めており、総じて製紙用原料は減少。燃料用の震災物は発生場所によっては異物も多く、使いづらい状況。原料用・燃料用とも在庫過剰で推移している。とくに燃料用は震災廃棄物の大量入荷が続いており、在庫過多となっている。

## 8. 市売問屋

材木店は在庫を持っていないので、仕事があれば直ぐに手配しなければならないが、市売市場にも製品は多くないので、集荷が大変である。スギ、ヒノキ製品の価格は強気になっている。国産材、外材とも構造材はリフォーム材料しか動きがない。スギ、ヒノキの役物造作材は少量ではあるが、動いている。米ツガ、スプルースの造作材は高値のため動きが悪い。

## 9. 小売

国産材は原木コスト高により値上げを求めているが、需要自体が盛り上がり、価格転嫁は思うように進んでいない。外材製品も少なくなり段階的に値上げが進んでいるが、今後の仕事量や外材製品との兼ね合いなどで頭打ちになる可能性もある。国産材構造材は原木に加え製材、配送等のコスト高で値上げを打ち出して来ているが、実需が弱いままでは実際は値上げが浸透しそうもない。外材製品の在庫は多くなく、安値物も無くなっている。今後の需要次第ではあるが、WW集成管柱、RW集成平角は春以降、値上げが見込まれる。造作材では国産材役物平割の入手が原木の出材減で困難になっており、価格も小幅な値上げとなっている。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和7年3月18日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
欧州材	製材品	→	→	→
北洋材	製材品	→	↗	↘

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	↘	→	↘

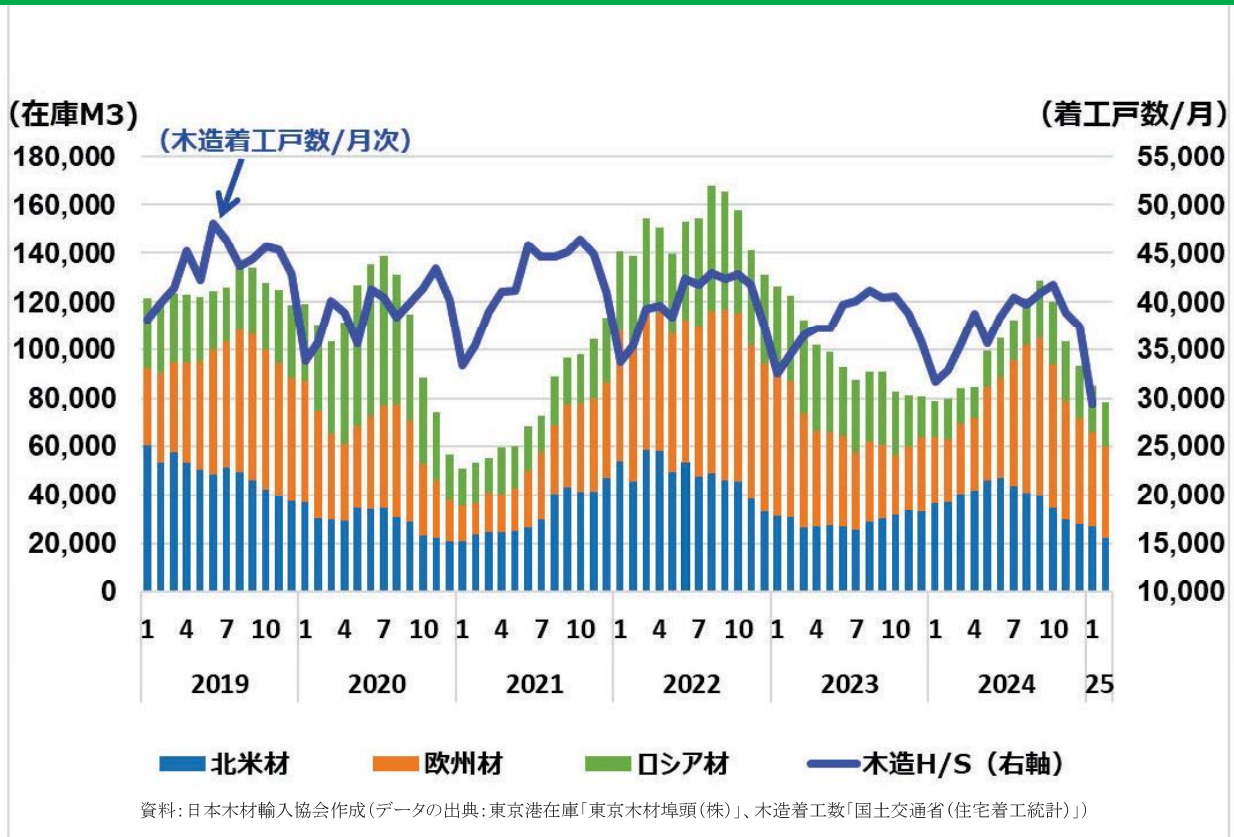
3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向	
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	↘	
			スギ中丸太(3.65m)2等	↘	
			ヒノキ柱材(3m)2等	→	
			ヒノキ中丸太(4m)2等	→	
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→	
			スギ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→	
			スギ間柱(KD)10.5×3.0×3m 特等	→	
			スギ加工板1.3×18.0×3.65m 特等	→	
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→	
			ヒノキ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→	
ヒノキ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→				
ヒノキ土台角(KD)10.5×10.5×4m 特等	→				
ヒノキ土台角(KD)12.0×12.0×4m 特等	→				
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→	
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→	
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→	
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→	
欧州材	製材品	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド'ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗	
			〃 間柱類 3.0×10.5×2.985m S4S FOHC	↗	
北洋材	製材品	北陸・オントラ 京浜・オントラ	アカマツ原板(KD) 40×165 1~3等	→	
			アカマツ(KD) 30×40上級	→	
			アカマツ(KD) 24×28 積木	→	
構造用 集成材	国内産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド'集成柱 JAS 5プライ	↗	
			レッドウッド集成梁 JAS 105×150~360×3.985	↗	
	欧州産		〃	スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
			〃	ホワイトウッド集成柱 JAS 10.5×10.5×2.985	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗	
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗	
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗	
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗	

注)令和6年4月調査よりレッドウッド集成梁(国内産、欧州産)、アカマツ原板を追加

参考図表 1

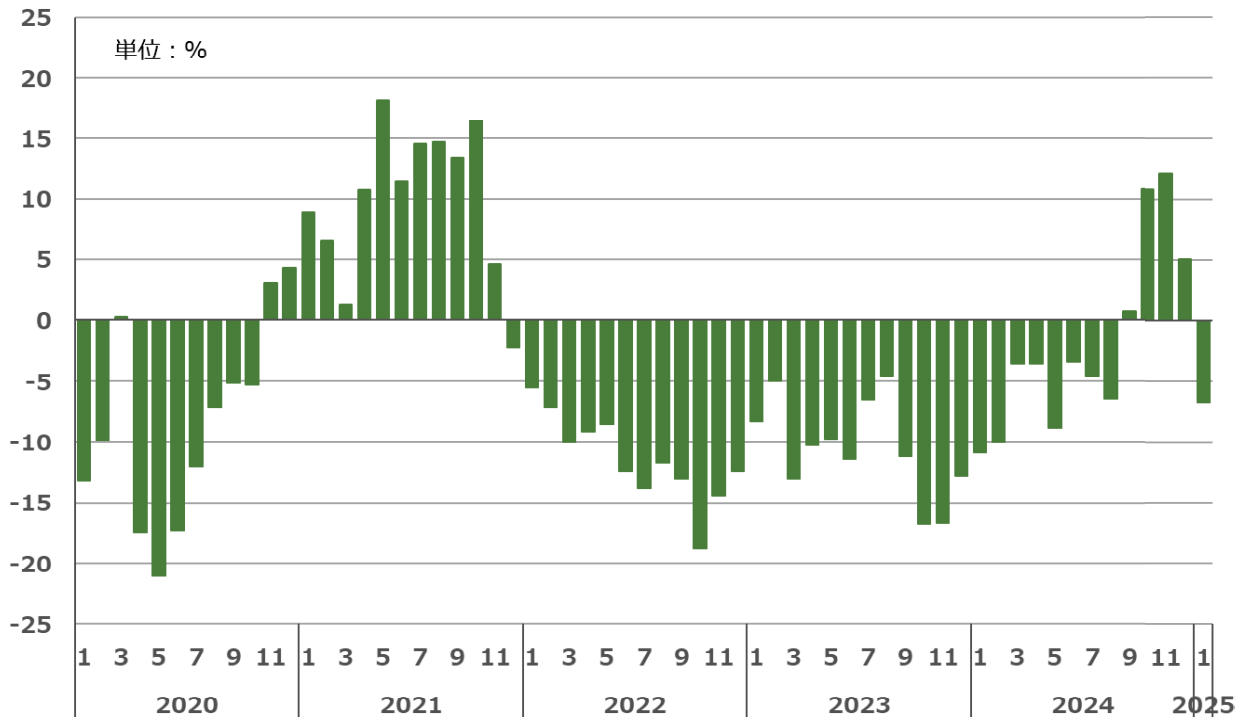
「東京港製材品在庫」と「木造着工数」の推移 2019～25年



参考図表 2

木造持家住宅着工数の対前年比の推移

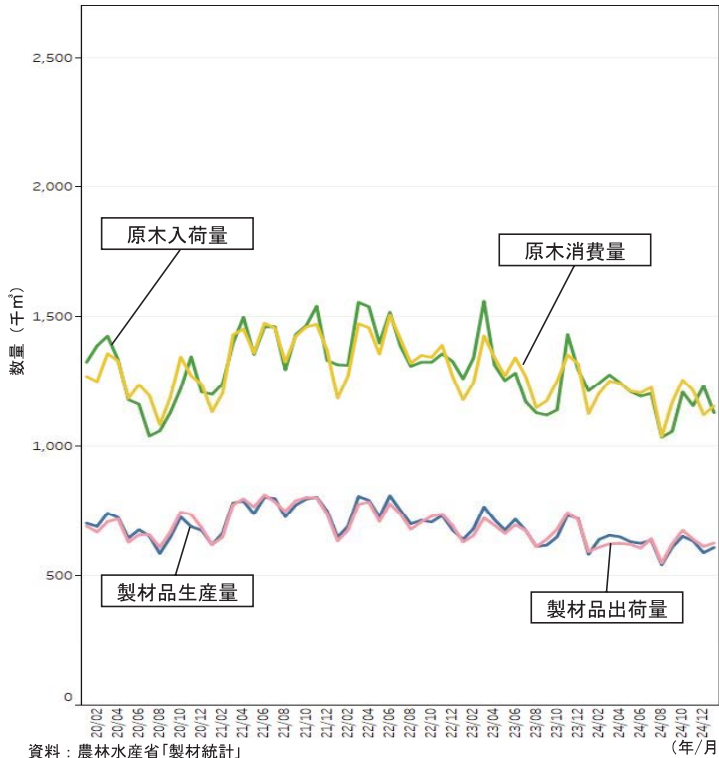
住宅着工数のうち、国産材の使用比率が比較的高い「木造持家」着工数についての、対前年比率。



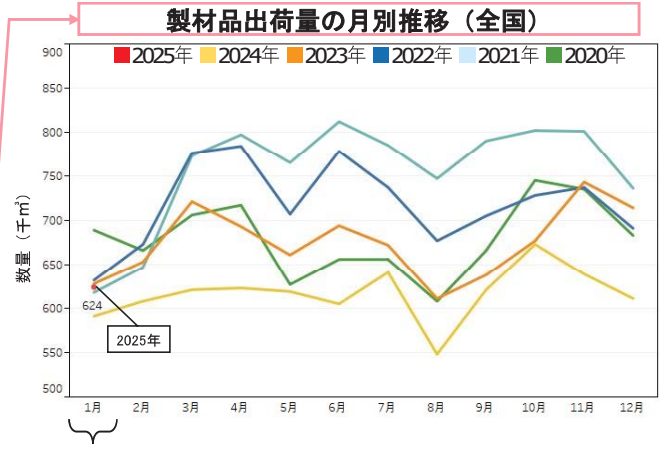
参考図表 3

工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向 製材（全国）

- 2025年1月の原木の入荷量は1,129千m<sup>3</sup>（前年比93%）。
- 同様に製材品の出荷量は624千m<sup>3</sup>（前年比106%）。



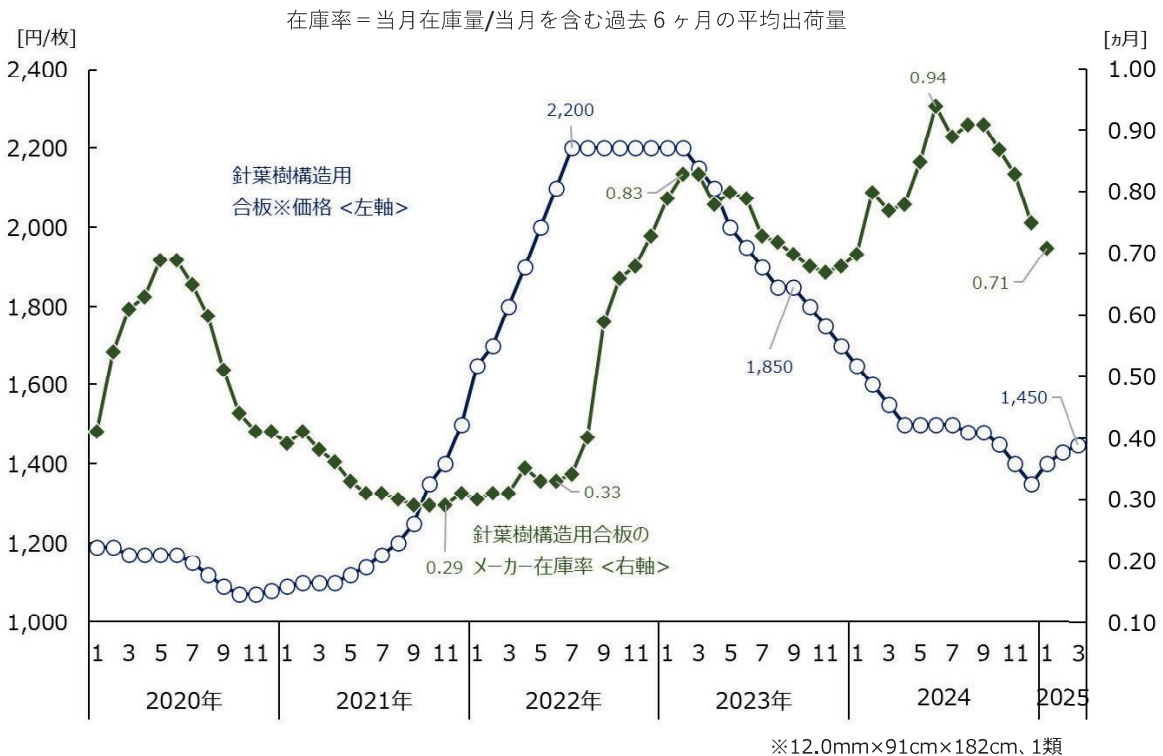
資料：農林水産省「製材統計」  
注) 原木在庫量、製材品在庫量については統計資料精査中



	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
1月原木入荷量 合計(千m <sup>3</sup> )	1,326	1,200	1,316	1,262	1,214	1,129
前年との比較	-	90%	110%	96%	96%	93%
1月製材品出荷量 合計(千m <sup>3</sup> )	689	618	632	628	591	624
前年との比較	-	90%	102%	99%	94%	106%

参考図表 4

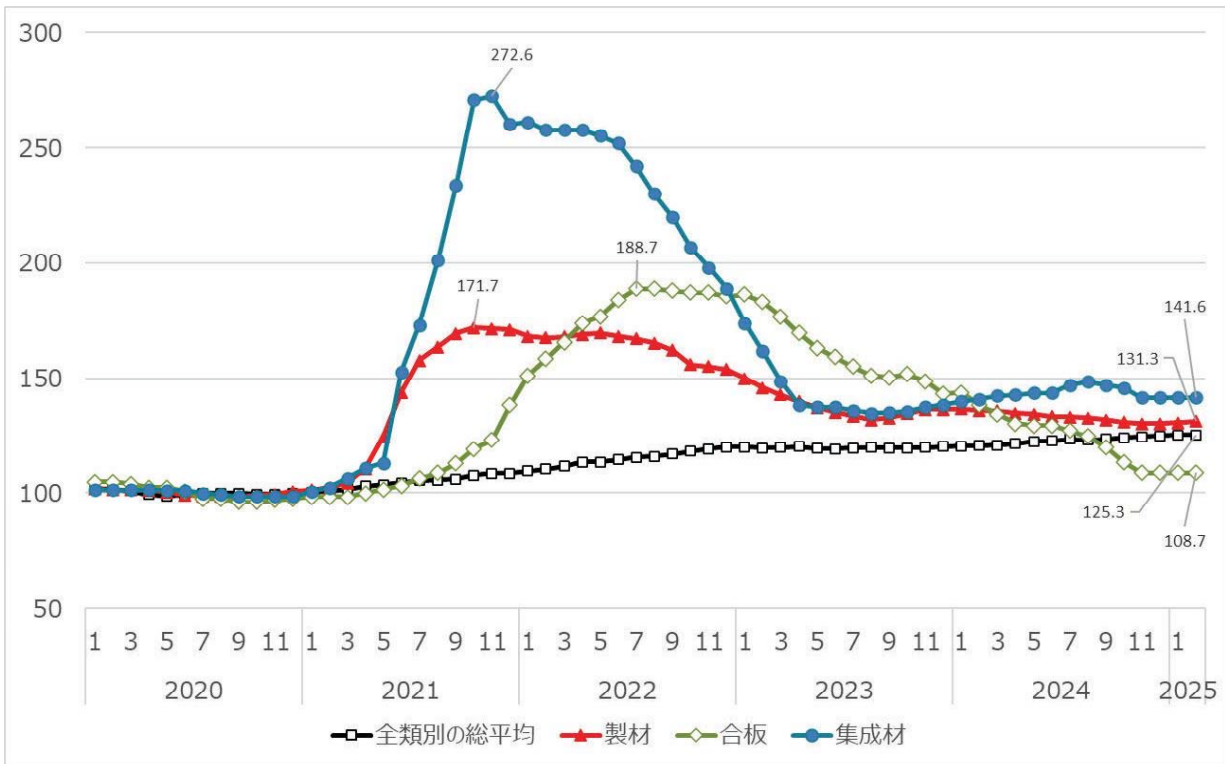
針葉樹構造用合板価格と合板メーカー在庫率の推移



資料：農林水産省「合板統計」、日本木材総合情報センター「市況検討委員会資料」  
注) 2025年1月から「合板統計」における当月在庫量の算定方法に変更があったため、前月までの在庫率の推移とは接続しない。

参考図表 5

国内企業物価指数の推移 (2000年平均 = 100)



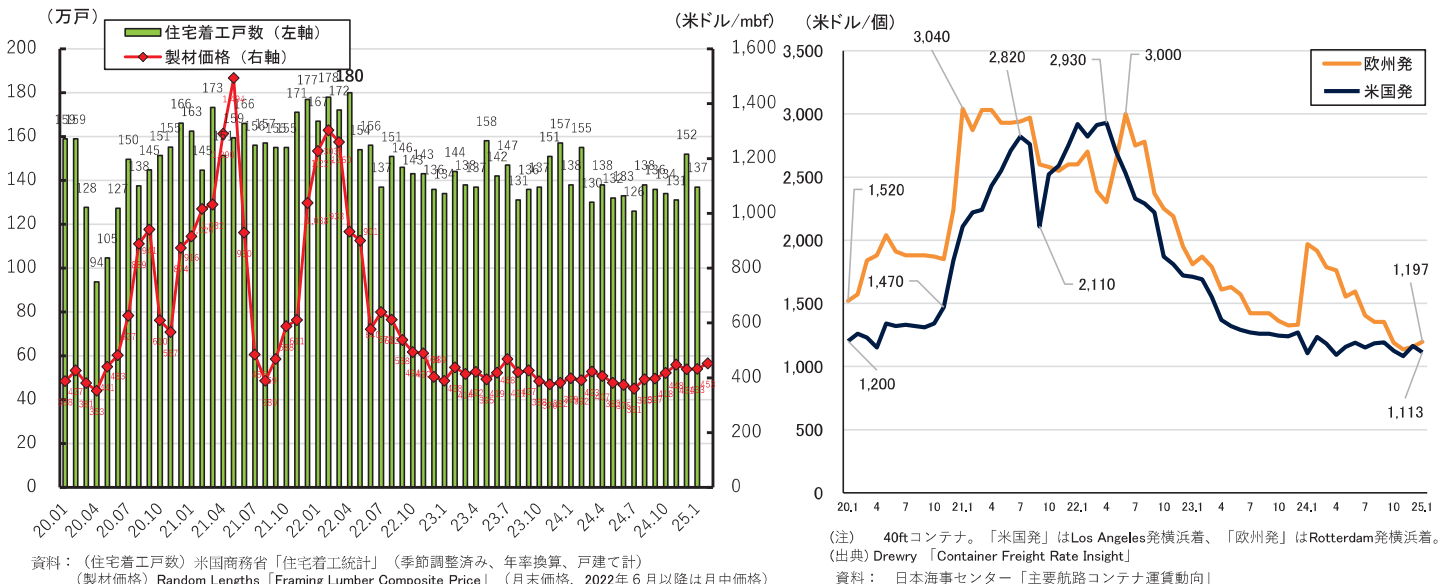
資料：日本銀行「企業物価指数」

参考図表 6

米国における木材価格の動向等

資料：木材輸入の状況について (林野庁木材貿易対策室)

- 米国の住宅着工戸数（戸建て計）は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年4月に急落。その後回復し、2022年5月からは概ね130~150万台で推移。2025年1月は前月比▲10%減の約137万戸。
- 北米の木材価格は、2020年夏頃から大幅な変動を繰り返し、2021年5月には1,494ドル/mbf、2022年2月には1,303ドル/mbfを記録した後、2023年以降は概ね400ドル/mbf前後で推移。2025年2月は453ドル/mbf（前月比+5%増）。
- 日本向けコンテナ運賃は、欧州発、米国発ともに一時期高騰したもの、2023年末時点で概ね元の水準まで下落。しかしながら、2024年1月には、紅海でのフーシ派攻撃によるサプライチェーンの混乱の影響で欧州発が一時的に高騰。



(注) 40ftコンテナ。「米国発」はLos Angeles発横浜着、「欧州発」はRotterdam発横浜着。  
 (出典) Drewry「Container Freight Rate Insight」  
 資料：日本海事センター「主要航路コンテナ運賃動向」

米国における住宅着工戸数と製材価格の推移

日本向けコンテナ運賃の推移